

白石市子ども・子育て支援事業計画

分野別施策の展開

平成29年度実施状況および平成30年度に向けての取組

平成30年10月

白石市保健福祉部子ども家庭課

1. <基本目標1>地域における子育て支援の充実

(1)地域における保育・子育て支援サービスの充実

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
保育園運営事業	保育を必要とする児童の保育施設への入所を実施します。家庭や地域社会と連携をとりながら、児童の健全な心身の発達を図ります。	子ども家庭課	安全で快適な保育環境の確保及び多様な保育ニーズへの対応を図るため、市立保育園の現状と課題、今後のあり方について検討を行った。	保育サービスのより一層の充実と、児童に安全で快適な保育環境整備に努める。
幼稚園の子育て支援	未就園児に幼稚園の園庭・園舎を開放しています。地域の高齢者の参画を得た世代間交流を推進します。	学校管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の親子と園児と一緒に遊ぶための園開放 一幼:「ぴよんぴよん広場」年3回 運動会への招待 二幼:「なかよし広場」年5回 ・中学生・高校生の職場体験受入 一幼:福岡中、白石工業高校 二幼:白石中、柴田高校、白石工業高校 ・幼・保・小研修会(公開保育及び関係機関との話し合い、7～10月) ・小学校、保育園との交流 一幼:第一小学校 二幼:第二小学校、南保育園 ・地域の自治会の方々と交流(芋堀り、子ども会招待、昔遊び会等) ・特別支援の研修会、巡回相談研修、気になる子どもに関する保健師や関係機関との連携(行動観察と指導の話し合い) ・県の学ぶ土台づくり事業 保護者の親の役割の学びについての研修会とワークショップの実施(年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の親子と園児と一緒に遊ぶための園開放 一幼:「ぴよんぴよん広場」年3回 運動会への招待 二幼:「なかよし広場」年5回 ・中学生・高校生の職場体験受入 一幼:福岡中、白石中、白石工業高校 二幼:白石中、東中、白川中 ・幼・保・小研修会(公開保育及び関係機関との話し合い、7～10月) ・小学校、保育園との交流 一幼:第一小学校 二幼:第二小学校、南保育園 ・地域の自治会の方々と交流(芋堀り、子ども会招待、昔遊び会等) ・特別支援の研修会、巡回相談研修、気になる子どもに関する保健師や関係機関との連携(行動観察と指導の話し合い) ・県の学ぶ土台づくり事業 保護者の親の役割の学びについての研修会とワークショップの実施(年1回)
休日保育事業	日曜・祝日など休日の保育ニーズに対応するため、保育園にて休日保育を行います。(平成22年度以降は休止中)	子ども家庭課	保護者からの希望がなく、実施しなかった。	保護者からの希望がないことから、平成22年度以降事業は休止中だが、保護者のニーズ等を把握しながら検討する。
第3子以降保育料無料化事業	保護者に係る経済的負担を軽減することを目的とした子育て支援事業です。	学校管理課	平成29年度は、市独自で保育料の減免事業を実施し、その事業において第3子以降の保育料を全額減免としたため、当事業の運用はなかった。	平成29年度に引き続き、市独自で保育料の減免事業を実施する予定のため、当事業の運用は予定していない。
		子ども家庭課	保護者の経済的負担軽減のため、第3子以降保育料の無料化を実施した。 認可:28件 4,195,700円 認可外:4件 1,860,000円	平成30年度までの3年間、実施期間の延長を行い、事業を継続して実施する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
誕生祝い金贈呈事業	白石市民として誕生した新しい生命が、将来地域の宝となるよう前途を祝福し、健やかに成長することを願って、父母にお祝い金(商品券)を贈呈しています。	子ども家庭課	白石市民として誕生した子どもが将来地域の宝となるよう前途を祝福した。 ○贈呈者及び贈呈金額 第1子:77人、77万円 第2子:76人、76万円 第3子以降:39人、78万円 合計192人、231万円	白石市民として誕生した子どもを持つ家庭を支援できるよう事業の実施を推進する。
子育て支援サブセンター事業	平成18年9月、子育ての孤立化等を防ぐため、身近なところで相談等ができるようにと、市内の各地区、計13か所にサブセンターを開設しました。	子ども家庭課	公民館等地域に密着した子育て家庭の支援機関であるサブセンターを訪問し、サブセンターとして子育て支援に関する相談窓口や市との連携先として位置付けの定着を図った。	地域全体で子育てを支援していくという機運を高めるためにもサブセンターの役割のひとつである「行政の子育て支援担当部署の紹介と連携」に重点をおいて事業を推進する。
あしたば白石	勤労婦人、勤労者家庭の主婦及び勤労青少年の福祉の増進を図るとともに、婦人の地位の向上と併せて勤労青少年の健全育成を図るため設置し、各種講座やサークル活動の支援を行っています。	子ども家庭課	平成26年度から平成30年度までの5年間、特定非営利活動法人水芭蕉を指定管理者として委託。定期講座や特別講座の開催、サークル活動及び貸館を主要事業として実施した。	引き続き、定期講座や特別講座の開催、サークル活動及び貸館を主要事業として実施していく。 また、指定管理者最終年度のため、次年度以降の更新について検討する。
ファミリー・サポート・センター事業	子育てのお手伝いをしてほしい人(依頼会員)、子育てのお手伝いができる人(提供会員)で構成される会員制の組織で、保護者がやむを得ない事情で子どもを一時預けたいときなど、会員同士が協力し、育児の相互援助を行います。	子ども家庭課	援助活動件数は4年振りに増加したものの、平成13年度の設立当初から比べると、0歳児保育や放課後児童クラブの充実などもあり、利用ニーズは低い傾向にある。 ○会員数614人 ○援助活動件数952件 ○提供会員向け講習会7回 ○講演会、交流会等計5回 ○ファミサポ通信発行4回	交流事業や地域子育て支援センターとの連携などにより会員登録を呼びかけ、希望する方が会員登録しやすい環境づくりに努める。
ふれあいプラザ事業(プレイルーム「やんちゃっこ」)	子どもの遊びの広場、親子のふれあいの広場として利用できます。 約29坪のプレイルーム内には、未就学児用の遊具やベビーベッドなどが置いてあり、全天候型の気楽に利用できる施設となっています。	子ども家庭課	平成29年度利用実績(延人数) 大人 4,199人 子 4,970人 父母だけでなく祖父母の利用も多い。 また、市外からの利用が1割程度ある。	継続して未就学児が安全に利用できるよう室内の清掃や遊具の点検・消毒に配慮し、楽しい遊びの空間の提供に努める。 また、子育て情報の収集に努め、広く発信してゆく。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
地域子育て支援センター	地域の子育てネットワークの中心として他機関との連携を図り、電話や来館等による相談、子育てサークルの育成支援、子育てについての情報提供などを行います。	子ども家庭課	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談実施数 29件 ・年齢別「るーむ」各12回実施 ニコニコ 親 142人 子 162人 ワクワク 親 201人 子 238人 ランラン 親 198人 子 222人 サンサン 親 127人 子 168人 ・あいあいらんど大平 1回実施 参加数 親 11人 子 15人 ・育児講座 あかちゃん3B体操 7回実施 参加延数 親52人 子56人 リトミック 8回実施 参加延数 親78人 子89人 絵画造形教室 5回実施 参加延数 親36人 子45人 ベビーあいあい 6回実施 参加延数 親37人 子37人 ・保育園で遊ぼう会 3回実施 参加延数 親30人 子37人 ・幼稚園で遊ぼう会 1回実施 参加数 親10人 子12人 ・人形劇 1回実施 参加数 大人32人 子109人 ・ほっぶんちよ 5回実施 参加延数 大人101人 子113人 ・地域支援 2回実施 白川地区(白川きらきらタイム) 参加数 大人13人 子18人 小原地区(小原わくわくランド) 参加数 大人7人 子8人 	<p>地域の子育て支援ニーズを把握し、ニーズに則した事業の提供に努める。 妊婦を対象とする教室を開始したことから妊娠期からの支援ができるようになったこと、また、参加者の低年齢化が進んでいることから、これらに対応した開催事業の構成としていく。</p> <p>育児不安の軽減を図るよう、タイムリーな育児相談と必要に応じ関係機関との連携による支援提供を図り、子育て家庭を支援する。 また、地域の子育て支援情報の収集に努め、発信していく。</p>
スパッシュランドしろいし	市内保育園児・幼稚園児の施設利用を呼びかけ、無料送迎し、園外活動の場を提供していきます。	企画情報課	前年に引き続き市内保育園児・幼稚園児の施設利用を呼びかけ、無料送迎し、園外活動の場を提供した。 一人100円、付き添いは無料で実施した。 44回、823人	園外活動として、園児らに好評であることから、利用回数を増やす働きかけをするなどして施設の効率的な利用を図り、引き続き事業を実施していく。
白石市ホームページ	市の子育て支援情報を総合的に掲載し、市民が安心して子育てができる環境づくりの一助に資します。	子ども家庭課	子育てホッとマップ発行後の事業や内容変更などを中心に、新しい情報をタイムリーに発信することに努めた。	子育て支援サイトを活用し、市の子育て情報がワンストップで分かるよう情報の充実を図る。
家庭相談事業	家庭における児童の健全育成に関すること、及び児童にかかる家庭の関係に関することについて相談、指導を行います。	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 個別ケース110件 ・年間相談件数1,772件 ・個別ケース検討会10ケース、14回 	家庭相談員がコーディネーター機能を十分発揮し、家庭における児童の健全育成及び児童に係る家庭の問題等について相談・指導を行う。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
男女共同参画推進事業	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を存分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指した施策を推進します。 ・普及啓発事業の実施 ・男女共同参画専門委員会の開催 ・女性委員登用状況調査	福祉課	・女性委員登用状況調査 ・いきいきキャリアアップセミナー 32名参加 ・男女共同参画推進セミナー1回 「仙台真田氏物語」そして東北に根ざした物語を！」 40名参加 ・こころケア講座3回 41名参加	・女性委員登用状況調査 ・男女共同参画セミナー3回開催 182名参加 「他人を知り人間関係を学ぶためのコミュニケーション講座」
男女共同参画相談支援センター	男女共同参画相談支援センターに相談員を置き、配偶者からの暴力(DV)、セクシュアル・ハラスメントなどの問題に悩む方をサポートします。また、DV被害者の緊急一時保護及び自立のための支援活動を行います。	福祉課	相談件数 ・DV 44件 ・離婚 4件 ・その他 80件 保護件数 1件	専門相談員によるDV相談や支援等を行う。
広報しろいしの発行	「子育て情報」や「健康ひろば」のページなどに育児情報を掲載します。	総務課	毎月の「子育て情報」に加え、5月号では本市の子育て情報がワンストップでわかる「白石市子育て支援サイト」の紹介と、遊具が新しくなった「プレイルームやんちゃっこ」について2ページに渡って紹介。 また、12月号では、地域子育て支援センターについて利用者の感想なども盛り込みながら4ページの特集記事を掲載した。	毎月の「子育て情報」に加え、6月号では、8月にオープンする「こじゅうろうキッズランド」の運営事業者の決定に関するお知らせを2ページに渡って掲載。 また、8月号ではオープン直前の「こじゅうろうキッズランド」の施設内の紹介やオープニングイベントの内容など4ページの特集記事を掲載する。さらには、10月号で、グランドオープンした「こじゅうろうキッズランド」の様子を、利用者の声を交えて紹介。オープン後の各月のイベントを含め4ページで特集する。 今後も子育て支援に関する特集記事を掲載するなど、事業課と連携し市の子育て支援策や環境整備を広くPRする。
白石市母子福祉対策資金貸付金	緊急に小口の生活資金を必要とする母子世帯に貸し付けます(貸付限度額/5万円(無利子)返済方法/6か月以内に全額返済)。	福祉課	貸付者数 0 件 相談はあるが、要件を満たさないため宮城県の母子貸付資金を紹介している。	白石市社会福祉協議会による「生活安定資金」制度があるため、母子限定の貸付制度は今後廃止の方向で検討する。
母子・父子家庭医療費助成事業	母子家庭の母親または父子家庭の父親で、満18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者(以下「児童」と標記)を養育している方とその家庭の児童、両親のいない児童に対し、医療費を助成します。助成額は、保険診療の自己負担相当分のうち、外来は月額1,000円、入院は月額2,000円を超える額です(所得制限あり)。	健康推進課	母子父子家庭の生活の安定を図るため、医療費の助成を実施した。 ・対象者 813人 (平成30年3月31日現在) ・助成額 6,916,699円	継続して実施する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
児童扶養手当給付事業	ひとり親家庭、父または母に重度の障がいがある家庭、親に代わって児童を養育している方に支給します。対象児童は18歳の年度末までの児童です。(心身に一定の障がいがある児童は20歳未満)。なお、公的年金や所得により制限があります。	福祉課	受給者数:322名 (平成30年3月末現在) 平成30年度支給総額 158,845,000円	経済的に不利であるひとり親家庭に対し手当を支給することにより、生活の安定と自立の促進を図る。
母子相談	母子家庭の生活、教育、医療費など経済上の問題や就職、生業、住宅などの生活上の問題の相談に応じ、その自立に必要な指導を行います。	福祉課	家庭相談事業の中で、必要に応じた自立支援相談を行った。	母子家庭の様々な生活上の相談に応じ、母子家庭の社会的自立を支援する。
私立幼稚園保育料助成交付事業	保護者に係る経済的負担を軽減することを目的とした子育て支援事業です。	学校管理課	ひとり親世帯等への補助限度額の増額、一部所得階層における多子計算の年齢制限撤廃など、制度を拡充した。	ひとり親世帯等への補助限度額の増額、一部所得階層における多子計算の年齢制限撤廃など、制度を拡充して事業を継続していく。
ブックスタート事業	6か月児育児相談時に、赤ちゃんとその保護者に絵本を贈り、絵本の読み聞かせを通して、親子のふれあいを深めてもらいます。	図書館・社会福祉協議会	これまで同様、6か月児育児相談の際にボランティアによる読み聞かせと、ブックスタートとして絵本を贈呈した。 ・読み聞かせ12回 参加者計412人 ・ブックスタートによる贈呈179冊 (社会福祉協議会より)	「ブックスタート」のきっかけ作りとして、ボランティアによる読み聞かせを行いながら、赤ちゃんとその保護者に手渡しによる絵本の贈呈を継続していく。
白石市子育てサポーター養成講座	地域において、子育て中の親等に対し、子育てやしつけについて、友人のような関係で気軽に相談にのったり、きめ細やかなアドバイスを行う子育てサポーターを養成し、子育て支援体制の充実を図ります。	生涯学習課	子育て支援者と、将来サポーターにつながるきっかけづくりとして対象者を広く募集し、「笑顔の親学講座」(県主催サポーター養成講座と合わせて計6回)を実施し、のべ62名が参加、子育てサポーターの養成に努めた。	市の既存サポーターの研修の場と合わせて市民に広く募集しサポーター養成講座を開催する。
家庭教育支援チームの整備(協働教育推進総合事業)	子育て中の親が抱える社会的課題(孤独な子育て、しつけなど)解決のきっかけとなる親育ちのための参加型学習を推進するため、家庭教育支援チーム(地域ボランティア)の整備を図ります。	生涯学習課	市内小中学校校長会へ協力を求め、「宮城県版親の学びのプログラム」を活用し、市家庭教育支援チームを講師役に出前講座を実施。幼稚園、小学校保護者や中学生を対象に、204人が出前講座に参加し、家庭教育支援チームの活動の場を広げるとともに、家庭教育支援の推進を図った。	市内小中学校へ、宮城県版親の学びのプログラムを活用した出前講座の実施に向け取り組む。また、支援チーム独自の活動として家庭教育支援の研修会を開催予定。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
すくすくベビー券支給事業	次世代を担う子の出生を祝い、保護者の経済的負担を軽減するために、紙おむつや粉ミルクなど育児用品の購入の一部を補助するため、白石市すくすくベビー券を支給する。(平成27年度新規事業)	子ども家庭課	子育ての経済的負担を軽減し、子育てに必要な紙おむつなど育児用品購入費用の一部を助成した。発行者数192人、発行額76万8千円、平成29年度中の使用75万2千円	利用者がすくすくベビー券をより一層使いやすい環境となるよう調整に努める。

(2)ワーク・ライフ・バランスの理解の推進

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
白石市「家庭の日」推進事業	毎月第三日曜日を「家庭の日」と定め、毎日を共に過ごす家族のすばらしさや、話し合いのできる家族のありがたさを見直すための活動を行います。	生涯学習課	市内児童・生徒からポスターの原画を募集し、小学生54名、中学生7名の応募があり、優秀作品をポスターとして市内各施設等に掲示し、啓発に努めた。また、青少年健全育成市民のつどいの中でわが家の「家庭の日」実践発表として市内小学生の親子、私の主張として市内中学生から発表があり、家庭の日の推進を図った。	「家庭の日」の推進を図る事業の実施に取り組む。

(3)障がい児施策の充実

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
障がい者福祉サービス(居宅介護)	重度の身体障がい児のいる家庭にホームヘルパーを派遣して、介護などの日常生活の支援を行います。	福祉課	受給者数:1名(平成30年3月末現在)	障害者総合支援法に基づく居宅介護サービスにより支援を行う。
特別児童扶養手当給付事業	20歳未満の重度又は中度の心身障がい児を療育している方に支給します(所得制限あり)。ただし、福祉施設に入所している場合は除きます。	福祉課	受給者数:57名(平成30年3月末現在)	障害児を有する家庭に対し、生活の安定と自立支援に繋がるよう特別児童扶養手当を支給し経済的援助を図る。
障がい児通所事業(白石市ひこうせん)	児童福祉法に基づく障がい児通所支援として「児童発達支援」及び「放課後等デイサービス」を実施します。	子ども家庭課	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援 登録者6人 通所延人数529人 放課後等デイサービス 登録者5人 通所延人数276人 園開放事業(おひさまひろば) 開催日数18日 利用延人数27人 	通所希望者が増加している現状にある。今年度も事業を継続し、日常生活に必要な療育や指導を提供し児童の発達の助長と保護者の不安軽減を図る。また、関係機関と連携し、多面的に支援する。
障がい児レスパイト事業	心身の発達に心配のある児童の一定時間介護療育を行います。	福祉課	事業実施施設 <ul style="list-style-type: none"> 地域生活援助センターポレポレ 県南生活サポートセンターアサンテ 受給者数:43名(※大人含む) (平成30年3月末現在)	実施施設による在宅障害児者の一時預かり事業を実施することにより、家族を含めた日常生活の支援を行う。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
障がい児福祉手当給付事業	20歳未満で著しく重度の障がいのため常時介護が必要な方に支給します(施設入所者、3か月以上の入院を除きまず。所得制限あり)。	福祉課	受給者数(延人数):84名 (平成30年3月末現在)	20歳未満の重度の障害児に手当を支給し、生活の安定を図る。
心身障がい者医療費助成制度	次の方に保険診療の自己負担相当分について助成します(所得制限あり)。 ①身体障害者手帳1・2級、内部障害3級または療育手帳Aをお持ちの方 ②特別児童扶養手当1級の支給対象児童 ③療育手帳Bを持ち、かつ職親に委託されている方	健康推進課	心身障害者の経済的負担の軽減を図るため医療費の助成を実施した。 ・対象者 771人 (平成30年3月31日現在) ・助成額 68,557,857円	継続して実施する。
重度心身障がい者移動サービス利用助成事業	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの重度障がい者の方にタクシー基本料金相当額又は自家用自動車燃料費の一部を助成します。	福祉課	発行人数・枚数 タクシー券 352名・12,126枚 燃料券 256名・2,956枚	重度心身障害者の社会参加を促進するため、事業を継続し、引き続き支援する。
心身障がい者通園事業(白石市福祉作業所やまぶき園)	雇用されることが困難な在宅の知的障がい者等の心身障がい者に対し、生活訓練及び授産指導を行うとともに、これらを通して働くことによる生きがいと、自立を支援します。	福祉課	利用登録者数:21名 (平成30年3月末現在) 受託作業:タオル折り、箱折り、電子部品組立、等	事業を継続する。
福祉プラザやまぶき委託事業	ふれあい室及び相談室を利用し、市民と障がい者の交流や福祉に関する活動の支援を図ります。	福祉課	障害者の相談窓口や社会福祉活動の場として利用	事業を継続する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
移動支援事業	屋外での移動に困難のある障がい児に対して、以下に掲げる外出のための支援を行い地域での自立生活を支援します。 ・社会生活上必要不可欠な外出 ・余暇活動等社会参加のための外出	福祉課	社会参加、地域での自立生活支援として事業を実施した。	事業を継続する。

(4) 児童の権利擁護と虐待防止対策の充実

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
白石市子どもネットワーク連絡協議会	次代を担う子どもの健やかな成長を目指して、保健・福祉・医療・教育等の関係機関が連携のもと、子育て支援施策を総合的・効果的に推進するための情報交換を行う場として設置されています。また、児童の虐待防止や要保護児童対策地域協議会の機能も持たせています。	子ども家庭課	平成30年2月27日に会議を開催し、本計画の平成28年度実施状況に関して意見交換を行った。主な質疑は、児童虐待、子どもの屋内遊び場に関することであった。	保健・福祉・医療・教育等の関係機関の連携に寄与できるよう、子育て支援に関する意見交換の場として会議の開催を行う。
		福祉課	要保護児童対策地域連絡協議会 ・実務者会議2回 ・協議会に110ケース報告し、対策について協議を行った。	児童虐待、要保護児童の早期発見とその迅速な対応のため、関係機関との情報共有を図っていく。

2. <基本目標2> 乳幼児及びその保護者の健康の確保・増進

(1) 子どもや保護者の健康の確保

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
母子健康手帳交付	保健師又は栄養士が個別面接で相談を受けながら交付しています。	健康推進課	母子健康手帳交付者数 208名	妊娠を機会に、親として成長できるような支援を行うとともに、妊娠・出産に関する経済的・環境的・身体的な問題などを抱える場合は早期に必要な支援を行う。また、母子健康手帳交付時の個別面接を充実させていく。
妊婦一般健康診査(医療機関委託)	妊婦健康診査受診票(助成券)を交付し、医療機関に委託して健康診査を実施しています。	健康推進課	健診助成回数14回(多胎に関しては7回追加あり)を上限として医療費助成。 実績 2,370件	妊婦の健康管理の充実及び経済的な負担の軽減を図り、妊娠中の異常の早期発見・早期治療を促進し、安心して出産を迎えられるように支援する。
妊婦さんと赤ちゃんのサロン	妊婦、産婦とそのお子さん(4か月頃まで)と、助産師・保健師・栄養士が妊娠・出産・育児などについて、お話ししながら過ごすサロンです。希望の方には、個別相談も行っています。	健康推進課	月1回開催 サロン参加者 実人数51名 延べ人数113名	妊娠・出産・育児の不安を解消できるよう、支援を継続して行っていく。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
乳児家庭全戸訪問事業(妊産婦・未熟児・新生児訪問指導事業)	産婦・新生児に対して、助産師・保健師が家庭訪問し、子どもの発育発達の確認と育児に対する相談・支援を行います。産後の育児不安や産後うつ病の予防や対応を目的にエジンバラ産後うつ病質問用紙票による聞き取りを行っています。	健康推進課	産婦訪問 実183件 延190件 新生児訪問 実189件 延193件(未熟児訪問13件を含む)	よりよい母子関係の構築、育児不安の解消や虐待の予防・発見を目的に、すべての家庭を訪問できるように努める。
乳児一般健康診査(医療機関委託)	2か月児、8～9か月児健康診査無料受診券を交付し、医療機関で健康診査を実施していきます。	健康推進課	2か月児健診受診者187名 8～9か月健診受診者169名	病気の発見、健康の増進、育児不安の軽減を目的に今後も実施する。
乳幼児健康診査	診察・身長体重測定・個別相談や健康教育を行っています。	健康推進課	月1回各種健康診査を集団で実施。健診の未受診者に対しては、受診勧奨を電話連絡や訪問等で対応。 ・受診者 4か月健康診査189名 6か月育児相談188名 1歳6か月健康診査214名 2歳6か月健康診査201名 3歳6か月健康診査194名	病気や発達・発育の問題を発見するほか、児の健康増進や養育者の育児不安の軽減を図り、親子を支援する大切な機会としていく。
遊びの教室	各種健診・相談等において、発達の経過観察が必要な乳幼児や育児不安を抱える保護者などを対象として親子遊び、個別相談などを行っています。	健康推進課	全10回の教室を実施。参加親子は延33組。	発達の経過観察が必要な乳幼児や発達について不安を抱える保護者を対象として集団活動や個別相談等を実施し、親子の支援を実施する。
養育支援訪問事業(訪問指導事業)	妊娠・出産・育児について、不安を抱える家庭及び児の健康や心身の発達に何らかの問題を抱える家庭等に対して、家庭訪問を実施し、養育の支援を実施しています。	健康推進課	実績 44件	他機関と連携しながら、支援を継続していく。
特定不妊治療費助成事業	子どもが欲しくても妊娠できず、不妊治療を受けているご夫婦の経済的・精神的負担を軽減するため、高額な医療費がかかる特定不妊治療費の一部を助成しています。	健康推進課	実績 4件	不妊治療を受けている夫婦の経済的・精神的負担を軽減するため、高額な医療費が掛かる特定不妊治療費の一部を助成する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
乳幼児相談	個々の不安を解消するために、育児に関して個別に相談を実施しています。	健康推進課	月1回開催。 参加実人数86件 延人数 262件	育児支援や虐待の予防・発見の場として今後も一層必要性の増す事業と考えることから、保護者や時代のニーズに合わせながら今後も継続して実施する。

(2)小児医療の充実

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
子ども医療費助成事業	子どもの医療費のうち、保険診療による自己負担相当分を助成します(所得制限、入院・外来毎の年齢制限あり)。県内受診は現物給付方式を採用し、診療費の窓口負担をなくしているほか、県外受診は償還給付方式を採用し、金融機関を通じた口座振り込みを行っています。	健康推進課	子育て世代の経済的負担の軽減を図るため医療費の助成を実施した。 ・対象者 3,918人(平成30年3月31日現在) ・助成額 109,642,827円	継続して実施する。
未熟児養育医療費助成事業	母子保健法の規定に基づく養育医療の給付を実施する事業で、医療の必要な未熟児に対して助成します。	健康推進課	・対象者 14人 ・助成額 3,233,528円	継続して実施する。

3. <基本目標3>教育環境の整備

(1)児童の健全育成

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
放課後子ども総合プランの推進	国の策定した「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の量の見込みに対する確保に取り組むとともに、放課後子ども教室推進事業(放課後子ども教室)についても平成31年度を目標として各種整備を推進します。 その際、既存の学校施設等の活用や放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的または連携による実施なども検討し、本市教育委員会と民生福祉部局が連携しつつ取り組んでいきます。	生涯学習課	放課後子ども総合プラン白石市行動計画編に基づき、平成30年度の第一・二小学校区放課後子ども教室開設に向け、放課後子ども教室総括コーディネーターを配置し、ニーズ調査や、関係者による先進地視察、統廃合も視野に入れたプログラム内容の検討を行った。	子ども・子育て支援事業計画に基づき、平成30年度から新規に第一小学校区放課後子ども教室を一体型で、第二小学校区放課後子ども教室を連携型で開設する。
		子ども家庭課	白石市子ども・子育て支援事業計画の別冊として、平成28年3月に策定した放課後子ども総合プラン白石市行動計画編に基づき、実施した。	計画に基づき、継続して実施する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
放課後児童健全育成事業 (放課後子ども総合プラン事業)	保護者が労働等により昼間家庭にいない市内の小学校に通学している児童に、放課後や長期休暇に安全・安心に過ごせる生活の場と適切な遊びを提供し、その健全な育成を図ります。放課後子ども教室推進事業との連携についても、検討していきます。	子ども家庭課	第一児童館、第一小学校、第二児童館及び第二小学校放課後児童クラブは、NPO法人FOR YOU にここにこの家に業務委託をして運営した。また、大平、福岡放課後児童クラブは、補助金の交付により各クラブの運営の支援を行った。	第一児童館、第一小学校、第二児童館及び第二小学校放課後児童クラブについては、引き続きNPO法人FOR YOU にここにこの家に業務委託を行った。また、大平、福岡放課後児童クラブは、補助金の交付により各クラブの運営の支援をしていく。
放課後子ども教室推進事業(放課後子ども総合プラン事業)	すべての子どもを対象とし、放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画(ボランティア活動等)を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を実施し、子どもたちが地域の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進します。放課後児童健全育成事業との連携についても、検討していきます。	生涯学習課	平成30年度からの第一・第二小学校区での放課後子ども教室新規開設に向け、総括コーディネーターを配置し準備を行った。第二小学校区においては斎川地区と協働で、斎川小学校で行っていた地域の伝統行事体験を盛り込んだプログラムで実施することとなった。	平成30年度から新規に第一小学校区放課後子ども教室を一体型で、第二小学校区放課後子ども教室を連携型で開設する。継続実施となる越河小学校区、深谷小学校区でも地域の特色を活かしたプログラムの充実に取り組む。
ジュニア・リーダー育成事業	子ども会や児童館・公民館などで、市内の児童が楽しく、そして活発な活動ができるようにサポートする中学生・高校生(ジュニア・リーダー)を育成しています。 ・ジュニア・リーダー初級研修会の開催 ・ジュニア・リーダー中級・上級研修会の募集 ・ジュニア・リーダーサークルの育成と支援	生涯学習課	各地区子ども会・小学校・児童館・保育所等幅広い団体・施設への派遣活動ができた。市主催事業にも参加を依頼し、地域貢献の意識を育んだ。また、ジュニア・リーダー自身の知識・技術の向上を図るべく、研修会へ参加した。	要請のあった各地区子ども会への派遣活動をはじめ、市主催事業等へ積極的参加。各種研修会を通して、知識及び技術の向上を図る。また、ジュニア・リーダーサークルへの加入の呼び込み。 ～30年度参加予定事業～ ・わんぱく教室 ・しろいし蔵王高原マラソン大会 ・健康福祉まつり ・仙南交流会「アンジャム」等
いきいきプラザ	各種市民グループで文化活動をしている団体の発表や地域間・世代間交流ができます。また、ボランティア団体の支援も行います。 リサイクル教室: 定期・短期にリサイクル工作の講座を開設します。	生活環境課	各種市民団体の発表と地域の交流の場として利用された。 また、各種リサイクル教室を開催したことで、子どもから大人まで幅広い年代層にエコ活動とリサイクルの推進を図ることができた。 ・定期リサイクル教室 年8回 (参加延べ人数33名) ・短期リサイクル教室 年2回 (参加延べ人数 前期59名、後期25名) ・夏休み子どもリサイクル教室 工作 通算3回開催、参加人数34名 裁縫 通算4回開催、参加人数18名	平成29年度末をもって閉館したことにより事業は終了したが、幅広い年代層にエコとリサイクルの推進を図るため、市内公民館において各リサイクル教室を継続し開催する。 【平成30年度予定事業】 ・リサイクル教室(短期及び夏休み期間の子ども向け教室)の実施 ※今後、計画上のいきいきプラザの取り扱いを検討いたします。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
児童館運営事業	児童に遊びの場を提供し、遊びを通じて地域・世代間の交流を行い、地域における子育て支援を行い、児童の健やかな育成を図っています。	子ども家庭課	平成29年度から平成31年度までの3年間、NPO法人FOR YOU にこにこの家に業務委託し、「手をつなぐ児童館」として地域のみんなで子育てという理念で事業を展開した。	引き続きNPO法人FOR YOU にこにこの家に業務委託を行い、必要な支援をしていく。
ホワイトキューブ	<ul style="list-style-type: none"> ・新体操教室 ・ミニバスケットボール教室 ・キューブジュニア合唱団 ・ヒップホップダンス教室 ・チアダンス教室 技術の向上と心身の健全な発達を助長することを目的として活動しています。	企画情報課	<ul style="list-style-type: none"> ・新体操教室(幼児～中学生):227回、8,324人 ・ミニバスケットボール教室(小学生):110回、1,478人 ・HIPHOP教室(小中高生):50回、392人 ・チアダンス教室(幼児～小学生):27回、195人 	児童等の健全育成のための活動機会の拡大を図りながら、本市の文化・スポーツの振興のために継続して事業を実施する。
アテネ絵本コーナー	絵本、大型絵本、紙芝居、DVDを配架し、貸出や閲覧、またその場で読み聞かせができるスペースを提供しています。	図書館	絵本、DVDを新規に購入し、絵本コーナーの充実を図った。古くなった本を積極的に買い替え、書架のリフレッシュを図った。	絵本コーナーをリニューアルし、親子で読み聞かせができるスペースを拡充。また紙芝居や大型絵本を絵本コーナーに移し、気軽に手ににとって利用できるようにし、もって子どもの読書活動の推進を図る。
白石市古典芸能伝承の館碧水園	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども日本舞踊講座 ・琴講座 ・子ども茶道教室 ・子ども能楽教室 ・小4の日舞、茶道体験教室(全クラス来館) 	碧水園	文化庁補助事業(一部市費) <ul style="list-style-type: none"> ・子ども日本舞踊講座19回216名 ・子ども茶道教室17回360名 ・子ども能楽教室16回142名 市単独事業として実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小4の日舞、茶道体験教室 体験児童293名 	文化庁補助事業として次の事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども日本舞踊講座 ・子ども茶道教室 ・子ども能楽教室 市単独事業として実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小4の日舞、茶道体験教室
白石市図書館文化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしひろば(読み聞かせ会) ・トールペイントひろば ・図書館体験隊 ・おりがみひろば ・読書感想文「さざんか」の発行など 	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしひろば・出前読み聞かせ会 実施101回 参加者計2,731人 ・図書館体験隊 実施1回 参加者3人 ・絵本の大リサイクル市 提供冊数1,714冊 ・子どもの本展示会 来場者計1,518人 ・郷土を知る月間「白石あだ討ち噺」開催 ・読書感想文「さざんか」61号の発行 ・移動図書館車こまくさ号の運行 市内の小中学校をはじめ、21箇所貸出、28箇所に配本を実施した。 ・中学校・高校の職場体験を受入 受入校4校 受入人数7人 	引き続き子ども向けの事業を実施し、本に親しみ、図書館を利用するきっかけ作りに努める。読み聞かせボランティア等による小学校・保育園などでの読み聞かせやブックトークを継続的に実施する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
AZ9パスポート利用	仙南2市7町の児童・生徒が、土・日・祝日に、仙南広域圏の指定された生涯学習施設等を無料又は安価で相互利用できる、余暇における生涯学習の推進が図られています。	企画情報課	対象施設である白石市文化体育活動センター、スパッシュランドしろいし、白石・人形の蔵、みやぎ蔵王白石スキー場、白石城、白石城歴史探訪ミュージアム、片倉家中武家屋敷でより多くの児童・生徒に施設を利用してもらえるよう、無料又は安価で相互利用できる体制を維持した。	より多くの児童・生徒に施設を利用してもらい、余暇における生涯学習の推進が図られるよう、さらにPRに努め事業を継続していく。

(2)子どもの生きる力の育成に向けた学校の教育環境等の整備

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
いじめ・不登校等の問題行動に対応する相談体制づくり	6校全部の中学校に、スクールカウンセラーを配置して、生徒、教諭、保護者の相談に応じています。	学校管理課	引き続き6校全部の中学校に、スクールカウンセラーを配置して、生徒、教諭、保護者の相談に応じ、カウンセリング等によって、児童生徒の心のケアを行った。	全中学校に、スクールカウンセラーを配置しているほか宮城県の補助事業を活用し「白石市子どもの心のケアハウス」を設置。悩みや問題を抱えた児童生徒に対し、関係機関と連携しながら対応にあたっている。
わんぱく教室	ジュニア・リーダー養成のための事業と位置づけ、小学校高学年を対象に、キャンプ・レクリエーション・ニュースポーツなどの体験学習を行います。	生涯学習課	市内小学5・6年生計28名が参加し、全6回の体験教室を実施(各回土曜日に実施)。地域で活躍している方にご協力いただいた。第3回における2泊3日のキャンプでは、栗原市の花山青少年自然の家で野外活動を実施した。沢登りなど自然に触れることができた。	各種体験活動を実施。子どもたちに地域の魅力を発見してもらえるよう、白石の文化・食を活かした活動を行う。2泊3日のキャンプでは福島県磐梯青少年交流の家で実施し、参加者の自主性、協調性を育む。また、地域への貢献活動として花の植栽を取り入れる。
青少年相談センター事業	電話や来所による不登校、学校での人間関係、問題行動、家庭の問題、いじめ、非行などの相談を受け付けています。	学校管理課	不登校やいじめ等に関する相談を受け付けた。 H29年度実績: 来所相談件数19件、電話相談件数15件	相談内容が多様化、複雑化してきているので、関係機関との連携を強化し、ニーズに対応出来る支援体制を構築していく。
ニュースポーツ推進事業	小学校や公民館を対象とした移動教室のほか各種大会を通じて、誰でも気軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、幅広い年代にスポーツ活動の機会を提供します。	生涯学習課	○実施回数(延べ) 小学校7、地区公民館3 ○参加人数 シャフルボード 192人 キンボール 83人 ドッチビー 19人 タグラグビー 65人 その他 160人	小学校や各地区公民館で移動教室を開催し、参加者にあわせたニュースポーツを提供することにより、より多くの市民に無理なくスポーツを楽しむ場の提供と、スポーツへの興味を引き出す機会づくりに努める。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
地域・家庭と学校との連携協力による学校の活性化	特色ある学校づくり:学校の実情や地域社会の実態を考慮して自校研究主題を設定し、児童生徒の豊かな心を育むための活動を創意工夫して取り組んでいます。	学校管理課	平成29年度は大平小学校、大鷹沢小学校、小原中学校で、学校の実情や地域社会の実態を考慮して自校研究主題を設定し、児童生徒の豊かな心を育むための活動を創意工夫して取り組むことができた。	平成30年度は白石第二小学校、越河小学校、東中学校で、学校の実情や地域社会の実態を考慮して自校研究主題を設定し、児童生徒の豊かな心を育むための活動を創意工夫して取り組む。
	学校評議員会制度:地域社会からの支援・協力を得て、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進し、地域社会と一体となって、学校が抱える教育課題に対処していきます。		全小・中学校及び第一・第二幼稚園で評議員が委嘱され、年2～3回の評議員会が開催された。員会では、学校・幼稚園運営の実施状況等について意見をいただいた。	すべての園または学校で評議員が委嘱され、年2～3回の評議員会が開催予定であり、委員の意見を聴取していく。
情報教育の推進	情報教育環境の整備充実(児童生徒へのパソコン配置、インターネット接続環境の充実、校内LANの充実、学習ソフトウェアの充実) 情報教育を担う人材の育成	学校管理課	タブレット型パソコンのより一層の活用を図るため、拠点校に集中配置していたものを各学校に分散配置するとともに短焦点プロジェクターを導入する。また、各種研修会等を積極的に実施し、有効活用を図った。	小中学校の教員で白石市コンピュータ活用推進委員会を組織し、情報機器を活用した授業実践や研修会を企画・運営し、情報機器を活用した効果的な授業の推進を行っている。
小・中学校生徒指導対策	年2回、生徒指導問題対策会議を開き、いじめ、不登校、暴力行為など、生徒指導上の問題行動への対処について具体的方策を立てます。	学校管理課	生徒指導に関する事例を通して、学校や家庭、地域の役割を明確にするとともに、健全育成という視点で連携できた。	生徒指導問題対策会議を開催、学校や警察等の関係機関と情報共有や、問題に対する検討を行い、生徒指導上の問題行動への対処につなげる。
発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業	障がいのある子ども及びその保護者に対する相談及び支援を行うための教育相談のシステム化を推進し、教育・福祉・保健・医療・労働等が一体となって、生涯にわたり相談及び支援を推進していきます。 すこやか相談支援機関一覧と個人ファイル「すこやか相談」の活用を啓発していきます。	学校管理課	研修会等に対して県の補助がなくなっているものもあるが、市独自で早期の部の全体研修会を1回、特別支援コーディネーター研修会を2回実施した。早期の部の巡回相談も実施した。	研修会等に対して県の補助がなくなっているものもあるが、市独自で早期の部の全体研修会を1回、特別支援コーディネーター研修会を2回計画している。早期の部の巡回相談研修も昨年どおり実施予定である。

(3)家庭や地域の教育力の向上

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
環境浄化活動	有害図書、ビデオなど自動販売機設置箇所や台数を調査し、関係機関と連携して撤去運動をします。関係機関と協力し合って有害広告物撤去活動をしています。	学校管理課	「地域の子どもは、地域で育てる」のスローガンのもと、関係機関や団体と協力し、平成29年度も7月と11月の2回、有害広告物の撤去活動を行った。	関係機関、団体と協力の下、平成30年度も7月と11月の2回、活動を実施する。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
スポーツ施設の使用料の減免	各公園内有料スポーツ施設の使用料を、中高生(部活動での使用に限る)が使用する場合に限り、3割減免とし使用しやすくしています。	都市整備課	平成28年度に高校生以下を低料金とする料金改定を行うとともに、スポーツ少年団や中学生までの利用について減免の割合を拡大して利用促進を図った。 ・スポーツ少年団 大会 2割減 →10割減 練習 通常料金→10割減 ・中学生までの利用 3割減 →10割減	スポーツ教育活動を中心に減免措置を継続実施し、子どもの心身の健全な教育のために努める。
みらい子育てネット(母親クラブ)	①親子及び世代間交流文化活動(老人施設慰問、こどもまつり、土曜ひろば、人形劇) ②児童養育に関する活動(6ヶ月健診時メダルプレゼント、会員研修) ③児童の事故防止のための奉仕活動(児童公園安全・防犯点検、交通安全ストップマーク貼付) ④その他児童福祉の向上に寄与する活動(新一年生へのプレゼント、花壇整備他)	子ども家庭課	児童館や地域と連携し、親子や地域、異世代間のつながりを深められるよう、子どもたちのために様々な活動を行った。 主な活動は、こどもまつりへの参加、あそび場遊具安全点検、老人施設訪問、児童館まつりへの参加、小学校周辺通学路のストップマーク貼付など。	児童館業務の業務委託に伴い、母親クラブが統合されたことから、会員の減少が見られる。活動内容の充実のため、会員数の維持に努めていく。
あいあい広場	大平公民館で、手作りおもちゃなど、楽しく遊べる環境作りに配慮し、親と子の温かなふれあいを目的に開設しています。 地域を越えて交流しながら、いろいろな人とふれあうことで、子育てしている親・祖父母同士のつながりを築いていけるような雰囲気づくりをしています。	子ども家庭課	・あいあいらんど大平 1回実施 参加数 親 11人 子 15人 大平地区民生委員会との共同で実施したが、地域に住む参加者が減少しており、開催場所に関係なく事業を求める親が多い。	事業を検証した結果、 ①地域に住む親子の参加が無い状態が続いていること ②体を動かす活動を中心に行ってきたが、低年齢層の子どもの参加が主になっていること 以上より、事業を一旦休止する。
市民活動拠点の充実とまちづくり情報の提供	白石市民活動支援センターにおける市民活動や情報交換の場、学習機会の提供など支援機能を市民団体の主体的な関わりにより充実します。	企画情報課	利用者により組織されている白石市民活動フォーラムで管理運営を行っている白石市民活動支援センターにおいて、市民活動や情報交換の場の提供を行った。	今後も、市民の自発的な活動を促進させるために、白石市民活動センターなどの市民活動の場のPRや、支援情報の提供をさらに強化していく。
		生涯学習課	地域コミュニティ育成支援事業(やる気応援事業)は廃止になったが、やる気応援隊に加入していた団体のうち、希望する団体についてはホームページに掲載し活動のPRを行った。	やる気応援隊に加入していた団体のうち、希望する団体については継続してホームページに掲載し活動のPRを行う。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
市民活動支援システムの整備	市民活動の促進・支援・交流を目的として、市民団体等と連携しながら活動資金・備品を提供するなどの支援システムの整備を行います。	企画情報課	白石市民活動支援センターにおける備品(印刷機、コピー機等)の貸し出しや、白石市民活動フォーラムが行う同センターの管理運営の支援を行った。「自治宝くじ助成事業(助成金申請事務支援等)」を継続実施し、地域コミュニティ活動の活性化に寄与した。	今後も、地域コミュニティ活動の充実・強化を図るため、「自治宝くじ助成事業」のPRに努め、活動団体に活用してもらえるようにしていく。
		生涯学習課	地域コミュニティ育成支援事業(やる気応援事業)は廃止になったが、市民活動の支援のため中央公民館備品を継続して貸出した。	市民活動の支援のため中央公民館備品を継続して貸出する。
食育の推進	白石市食育推進プランに基づき、食育の推進を行います。	健康推進課	平成30年2月7日に食育推進協議会を開催し、関係機関の取り組み状況報告と次年度の事業計画の確認を行った。広報しろいしヘルシークッキングに「毎日とろう骨骨カルシウム簡単レシピ」を掲載した。農林課、生涯学習課と連携して野菜の収穫体験と収穫した野菜を使って食育教室を開催した。	第2期食育推進プランの最終年度であり、第3期食育推進プランを策定するため、食育推進会議を11月と2月に開催する。広報しろいしヘルシークッキングに「親子で作れる白石温麺レシピ」を掲載する。農林課、生涯学習課と連携して野菜の収穫体験と収穫した野菜を使って食育教室を開催する。

4. <基本目標4>生活環境の整備・安全の確保

(1)安全・安心まちづくりの推進

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
街頭巡回指導	青少年相談センター16名が、2名一組となりほとんど毎日子どもたちの下校時間帯以降や塾の帰り時に、市街地や大型店舗、たまり場になりやすい公園等での巡回指導や、愛のひと声をかけています。	学校管理課	青少年相談センター相談員16人が2人一組となり、ほぼ毎日子どもたちの下校時間以降に、大型店舗や公園等を巡回し、子どもたちへの声かけを行った。年間延べ実施回数103回。	今年度も、青少年相談センター相談員16人が2人一組となり、子どもたちへの声かけを行っていく。
幼児交通安全教室	市内の幼稚園・保育園において交通指導隊と地域交通安全推進委員の協力のもと、交通安全教室を実施し、幼児の交通安全意識の向上を図っています。	危機管理課	市内の保育園7園および幼稚園2園のべ476名の児童に対し、交通安全教室を通じて交通安全意識の向上が図られた。	市内の幼稚園、保育園児を対象とした交通安全教室を実施し、交通指導隊、地域交通安全推進委員の協力のもと、交通安全への意識の向上を図る。
新入学児童の交通安全指導	市内各小学校の一日入学時に、親子それぞれを対象とした交通安全講話の実施と交通安全ランドセルカバーの配布を行います。	危機管理課	入学式において新入学児童および保護者等を対象に、交通安全啓発活動を実施した。(第一小、第二小において交通安全協会白石支部の方々とともに啓発活動を行った)	新入学児童・保護者に対し、交通安全啓発チラシ等の配布を行い、登下校時の交通安全啓発を図る。
市内小中学校交通安全教室	市内の小中学校において交通指導隊員による交通安全教室を実施します。	危機管理課	市内の小・中学校15校(複数回実施している学校もある)で、横断歩道の正しい渡り方や、正しい自転車の乗り方の指導を行い、交通安全意識の向上が図られた。	市内の小中学校において、交通指導隊員が正しい横断歩道の渡り方や自転車の乗り方などを指導することで、小中学生の交通安全への意識の向上を図る。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
防犯体制の充実	防犯意識の啓発と防犯運動の推進により、全市民的な防犯機運の盛り上げを図るとともに、犯罪の起こりにくい環境を整備(自主的防犯組織の充実強化、防犯キャンペーンの実施、防犯灯のLED化)し、市民が安心して暮らせる生活環境の実現に努めます。	危機管理課	市内における防犯灯のLED化や球切れ等の修繕を迅速に行い、犯罪の起こりにくい環境整備に努めた。	市内における防犯灯のLED化や球切れの修繕、要望箇所への新設を行い、犯罪の起こりにくい、市民が安心して生活のできる環境の実現に努める。
幼年消防クラブの育成	市内の全市立保育園7園、私立幼稚園1園に結成されており、幼年期からの防火意識の向上を図っています。	危機管理課	市内7園、約400名の幼年消防クラブ員が、白石市消防出初式や各地区における消防演習に参加し、「防火の誓い」や「火の用心の歌」を披露することで、幼年期からの防火意識の向上が図られた。	幼年消防クラブ員として消防団の出初式や演習・地区行事に参加することで、幼少期から防火に対する意識の向上を図る。
市道改良整備事業	・狭隘道路の拡幅する道路改良工事 ・排水機能向上及び道路幅員を保する側溝改良工事 ・老朽化舗装を改修する道路舗装工事	建設課	社会資本整備総合交付金事業による国の補助制度を取り込みながら事業を実施した。交付金事業以外の路線は現状維持に努めた。	社会資本整備総合交付金事業による国の補助制度を取り込みながら、財政的制約のある中で効果を発現していく。 なお、交付金事業対象以外の路線は現状を維持する。
スクールゾーン内危険ブロック塀等除却事業	スクールゾーン内の通学路に面した危険なブロック塀等の除却に要する費用を助成しています。	建設課	1件	計画3件、事業費450,000円
公園灯・バリアフリートイレ等の設置	市内76か所の公園環境の現状を再点検して公園灯・バリアフリートイレ等の設置を検討します。	都市整備課	市内の主な遊具設置公園44か所の利用状況を再点検し、施設の安全維持に努めた。	市内76か所の公園環境の現状を再点検して、財政状況を踏まえ施設の整備に努めていく。
白石市営住宅第三子優先入居制度	市内6団地において、満18歳未満の子どもが3人以上いる世帯を一般世帯に先立ち募集しています。	建設課	募集実績13戸に対し1戸入居	対象住宅において第3子優先で募集を行う。
スクールパトロール(通学路巡視)	生徒・児童の登下校時に通学路を巡回及び交差点等に立ち、生徒・児童の安全を見守ります。	学校管理課	今年度も生徒・児童の登下校時に通学路を巡回及び交差点等に立ち、生徒・児童の安全を見守った。	生徒・児童の登下校時に通学路を巡回及び交差点等に立ち、生徒・児童の安全を見守る。

事業名	内容	担当課	平成29年度実施状況	平成30年度に向けての取組
しろいし安心メール	電子メールを使用して、火災や地震などの、災害情報を配信します。 ※要登録メールアドレス: shiro-i@mpx.wagmap.jp	危機管理課	登録者数は4,727人であり、火災や地震の災害情報及びクマ出没状況、詐欺被害防止等の防犯情報を迅速に配信した。	火災や大雨などの災害情報や不審者や詐欺防止などの防犯情報を迅速に配信し、地域住民の防災・防犯意識の向上を図る。
	市内の幼稚園、小・中学校に通園通学している保護者に、一斉に連絡する必要がある情報(危機管理に関する情報や子どもの安全に関する情報)を配信します。※要登録(メールアドレスはお子さんの通園通学している、各園・学校にお問い合わせください)	学校管理課	市内の幼稚園、小・中学校に通園通学している保護者に、危機管理課よりしろいし安心メール登録要領の提供を受け、各学校に配布した。	迅速かつ的確な情報発信に努め、事業を継続していく。
白石沖西堀線	白石市街中心部を南北に縦断する幹線道路として、JR白石駅前から国道113号までの未整備区間(延長472m)の都市計画道路を整備します。	都市整備課	事業の平成29年度供用開始を目指し、道路改良工事を実施した。	平成30年度供用開始する。
安全な教育施設設備の整備及び教育施設設備の適切な管理	幼稚園2園、小学校10校、中学校6校について適切な維持管理、整備を行います。	学校管理課	安全な教育施設設備の維持のため、引き続き各種保守点検を行い、適切な維持管理、整備を行った。	安全な教育施設設備の維持のため、引き続き各種保守点検を行い、適切な維持管理、整備を行う。